

果てしなき餐食^{さんしょく}

高学年 / 2時間

鑑賞

題材の目標

画面に広がる不思議な世界について話し合い、自分なりの題名や解説を想像して楽しむ。



「果てしなき餐食」 土屋幸夫

準備物 【教師】鑑賞作品の複写、カードなど
【児童】筆記用具、色鉛筆など

学習の展開例

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 事 項	評 価 規 準
<p>今までにみた不思議な夢を思い出し、紹介し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怖い、恐ろしい夢 ・不思議な夢 ・将来を予言するような夢 ・幸せな、楽しい夢など <p>「果てしなき餐食」に描かれている世界について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スプーンが人間のように見える。 ・空に浮かぶ皿から流れ落ちているものは何？ ・右下の小さなドアの向こうには何があるのだろうか？など <p>作品から自分が感じたことをもとに題名や解説を考える。</p> <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想を書く。 	<p>今までにみた夢を思い出させ、現実にはない不思議な世界に関心をもたせる。</p> <p>画面の何にひかれたのか、どう感じたのか、子ども一人一人の感性を生かしながら話し合いを進める。</p> <p>題名は伏せておく。</p> <p>児童が自分の思いを発言しやすい形態（二人組、グループなど）を工夫し、全体で意見を交流するようにする。</p> <p>考えがまとまりにくい児童には、話し合ったことを想起させたり、助言したりする。</p> <p>共通点や相違点を楽しみながら発表したり、聞いたりするようにさせる。</p> <p>本当の題名を知らせ、作者の意図を想像させる。</p>	<p>画面に描かれているや表現の意図など関心をもって見る。</p> <p>友人の見方や感じ方について分かり合おうとする。</p>

題材の意図と指導のポイント

< 児童の発達段階との関連 >

この時期の児童は、現実にはないものや空想の世界にも関心を持ち、自分なりに物語を導き出し楽しむことができるようになります。また、少し怖い感じの作品やミステリアスな作品などにも興味を示します。作品を鑑賞する時、自分なりの見方や感じ方ができるようになるとともに、作品の表現のよさを見つけ、作者の意図をも感じ取るようになります。

< 鑑賞の視点 >

現実には起こりえない世界が画面の中に広がり、見る者の想像力を刺激します。描

かれているものや色づかいなどから自由に想像を広げましょう。

< 指導の工夫及び配慮 >

鑑賞の活動では、一人一人が感じたことを学級全体で共有することで学習が深まります。発表しやすい学級集団をつくり、話し合いの場を充実させることが重要です。他の授業展開の例として、心の浮かんだものを作品に付け加えたり、ある部分を切り取っておいて描かれているものを考えていくことも楽しいでしょう。

< 教具（教材）づくり >

楽しみながらキャプションづくりができるように、題名や解説を書くだけでなく、この絵からイメージしたことをイラストなどで表現してみるのもいいでしょう。

は 「果てしなき餐食」

1938（昭和13）年制作

油彩，大きさ《37.9×45.5cm》

この題名につけられている^{さんしょく}餐食とは何か、辞書には「餐」は「ザン」とも読み「食事」の意味。「食」は「くうこと。たべること。たべもの。」とあります。つまり「果てしなき^{さんしょく}餐食」とは、言い換えれば、「きりがない、おわりがない食事（たべること）」となります。

この画面には、曇った空の裂け目に皿が顔を出し、そこから真っすぐ下に白いものを^{したた}滴らせています。その下には曲がったスプーンのようなものが沼か海のような表面から見えます。手前には赤味がかかった地面が広がり、右手には大きなスプーンと小さなドアが面白い対比を見せ、ドアの隙間が今から起こることを暗示しているようにも思えます。また、この画面の中には食すものも食されるものも描かれておらず、食事で使うスプーンと皿が不思議な様相をみせています。このように起こるはずのないできごとや風景、現実にはない不思議な世界を描く方法を超現実主義（シュルレアリスム）と言います。作者はこの絵で何を表現しようとしたのでしょうか。自由に想像してみましよう。

つちや ゆきお 土屋 幸夫

1911（明治44）年～1996（平成8）年

広島県尾道市に生まれました。1931（昭和6）年、東京高等工芸学校（現千葉大工学部）工芸図案科を卒業し、戦前から、シュルレアリスムの作品やそれまでになかった絵の描き方を工夫してさまざまな新しい絵を描きました。また、表紙や広告のデザインなども手がけ、デザイナーとしても活躍しました。1957年からは武蔵野美術大学で商業デザインを教えるようになり、多くの学生を指導しました。